

# 「自宅療養者に訪問介護続けて」厚労省通知

## 訪問介護者は「優先接種対象外」■ 感染リスク大

厚生労働省が全国の介護事業所に対し、新型コロナウイルスに感染して自宅で療養している高齢者への訪問介護の継続を求めている。陽性と診断された患者の自宅に向いて介護するのは感染リスクが高いが、訪問介護の従事者は新型コロナワクチンの優先接種の対象外で、現場からは戸惑いや憤りの声が出ている。

新型コロナに感染した高齢者は原則入院することになっているが、病床が逼迫している現状では、入院できずに自宅療養している人も少なくない。厚労省によると、新型コロナに感染した自宅療養者は、2月3日時点まで1万7092人。この中には高齢者も一定数含まれるといふ。

厚労省は5日、自宅療養中の介護が必要な高齢者への訪問介護サービスの継続を求める通知を全国の介護事業所に出した。通知では、訪問介護に出向いた場合、職員の割り増し分の賃金などの助成を受けることが可能で、人繋りの関係で対応が難しい場合はケアマネジャーと一緒に相談して別の事業所を手配するよう求める。

一方で政府は新型コロナの感染拡大対策として、特別養護老人ホームなど施設系の従事者を新型コロナのワクチン優先接種についても含めた感染対策が高まっている。(下同)

- ① 厚生労働省が全国の介護事業所に出した通知② 新型コロナに感染した高齢者宅で介護した際は、防護服やマスクを着用して対応した
- ③ 千葉労働者福祉会提供

## 現場「安心して働く環境を」

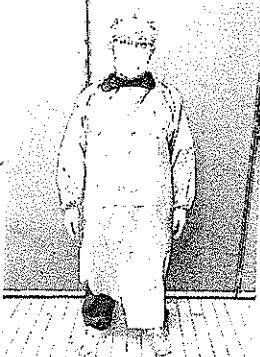
種の対象に入れ、PCR検査の定期的な実施対象にしたが、デイサービスや訪問介護など在宅系の従事者は対象外にしている。

千葉県の訪問介護事業所では1月末、基礎疾患のある利用者の感染が判明した後、入院先が見つかるまで訪問介護サービスを続けた。2人のヘルパーを専属の担当にし、防護服などの感染症対策を徹底。1日3回サービスを実施した。

事業所を運営する社会福祉法人・千葉労働者福祉会の門脇めぐみ介護部長は「だれかがその人の介護をしなければならず、もう使命感しかない」と話す。

厚労省には、通知を見た事業所から「対応は難しい」との声も届いているといい、担当者は「必ず対応してほしい」というわけではなく、ケアマネジャーと相談して別の事業所を探すこともできる」と説明する。

埼玉県で訪問介護事業所などを運営するNPO法人「暮らしネット・えん」の小島美里代表理事は「ワクチンの優先接種に訪問介護の従事者を加えるといった安心して働く環境をつくることが先。医療従事者のような研修も道具もないなかで感染対策をしてきたが、現場の善意に頼り切りでは、なり手もいなくなる」と憤る。(山本恭介)



平成23年2月6日

都道府県  
保健所設置市 施設主官部(局) 中  
特別区

都道府県  
指定都市  
中核市

厚生労働省 老健局高齢  
厚生労働省老健局高齢事業  
厚生労働省老健局